

平成 30 年度 地域生涯学習活動実践交流セミナー 事業報告

○ 事業の概要

- 1 研究テーマ 「地方創生の時代における社会教育行政の在り方」
～ 学びと活動の循環を促すための方策について ～
- 2 目的 本道における生涯学習活動の一層の推進を図るため、実践事例の交流等を通し、北海道における生涯学習活動推進上の課題解決を図る。
- 3 主催 北海道立生涯学習推進センター、北海道社会教育主事会協議会
- 4 期 日 平成31年2月14日（木）～ 15日（金）2日間
- 5 会 場 道民活動センタービル「かでの2・7」（かでのホール他）
- 6 対 象 市町村・市町村教育委員会職員、各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員等）、生涯学習・関連施設職員、社会教育関係団体職員、民間団体（NPO、ボランティア、企業等）関係者 等
- 7 参加状況 211名

管内別

ブロック	道 央			道 南				道 北			道 東				道外
	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	林-㇏	十勝	釧路	根室	
参加数	22	40	10	9	10	14	8	26	7	6	19	20	10	8	2
小計	72			41				39			57				2
総計	211														

経験年数別(申込時に記載があった方)

	人数
5年未満	110
5～10年未満	44
10年から15年未満	20
15年以上	11
合計	185

所属別

所属	人数
市町村教委職員	155
道教委職員	58
社会教育関係団体職員	6
道職員	5
その他	14
合計	211

8 プログラム

2月14日	10:00	10:30	11:15	11:45	13:15	15:00	15:15	17:00		
	受付	開会	(1) 研究 と究 めの	(2) 調 査 研 究	屋食	※ V T R	(3) 基調講演	移動 休 憩	(4) 分科会 事例発表 協議	17:00 解散

2月15日	9:15	11:10	11:25	12:30	12:45
	9:15 開始	(4) 分科会 事例発表 協議	移動 休 憩	(5) 全体会 分科会 成果交流	(6) 次 年 度 閉 会

※ 空知振興局、空知教育局、北海道立図書館、ネイパル全6施設、道民カレッジ、北海道立生涯学習推進センターの紹介動画を放映

(1) 研究のまとめ

【説明】北海道立生涯学習推進センター主査 田 中 尚 史

【内容】行われた研究の経過について、学びと活動の循環を促す方策を行政から地域住民や団体等へのアプローチと捉え、行政職員が行う効果的なアプローチについて、協議した内容や、各市町村での実践を「アプローチ集」としてまとめたことを説明した。

(2) 調査研究報告

【説明】北海道立生涯学習推進センター主査 尾 山 清 瀧

【内容】「地域づくりの担い手育成に関する調査Ⅱ」について、全道 179 市町村での担い手育成事業についての調査結果を報告した。今年度末までに最終の調査結果をまとめるが、現段階で担い手育成につながる事業に必要なこととして、「①事業主体・担当者の計画性が必要である。」「②活動につながるための要因・要素として、担当者からの働きかけは大きな役割を果たす。」「③活動の継続につながる要因・要素として活動場所の確保が必要である。」の3点が挙げられると説明した。

(3) 基調講演

【講師】一般財団法人地域活性化センター理事長 椎 川 忍 氏

【内容】

自分たちがどうしたいのかを積み上げていくのが「地域創生」であり、20年前に、このことに気づき自分たちの地域の創生を成し遂げた「やねだん」が良い事例である。やねだんについては、地方創生カレッジで紹介しているので、見てほしい。このような、積み上げ形の地方創生を進めるには、人と人を繋ぐ役割を果たす人材の育成が重要である。そして、公務員は、地域住民との協働が必要で、そのために地域に出て活動することが大切である。



(4) 分科会・全体会

【第1分科会「青年活動の促進」】

	事例	発表者	ファシリテーター／運営・記録
①	青年農業者の取組	栗山町4Hクラブ会長 篠田 雄太 氏	様似町教育委員会社会教育係 社会教育主事 小島 雄介
②	音楽を通じたまちづくりの取組	留萌市教育委員会生涯学習課 生涯学習係社会教育主事 土田 健斗	広尾町教育委員会社会教育課 社会教育係社会教育主事 塚本 大樹

【事例発表、協議から見えたアプローチ】

- 活動を継続させていくため、SNS等で情報発信を行い、参画者を増やすとともに、地域側にもメリットのある取組となるよう意識した。
- 運営母体を作るなど組織的に活動できる仕組みづくりを進める必要がある。
- 地域おこし協力隊に雑用はさせずに活動に専念できるように配慮している。



【第2分科会「高齢者の活動促進」】

	事例	発表者	ファシリテーター／運営・記録
①	まちの人を講師とした地域学講座「湧別町ふるさと講座」の取組	湧別町教育委員会社会教育課 社会教育主事（係長） 杉森 伸一	江別市教育委員会教育部 生涯学習課青少年係主事 横山 花鈴
②	東神楽町「あやめ学園」の取組	東神楽町教育委員会 地域の元気づくり課主事 藪 翔太	鹿部町教育委員会生涯学習課 社会教育・体育振興課主査 瀧澤 静

【事例発表、協議から見えたアプローチ】

- 子どもを講師にするなど親子イベントに一工夫し参加者の裾野を広げ、次世代の担い手を育成する。
- 行政から地域に貢献したいという気持ちを実現させる具体的な事業を提案する。
- クラウドファンディングによる経済的に自立する。
- 小中学校の授業と連携、40代、50代の人材との連携を図り後継者を育成する。
- 学園祭等での活動により、地域に階の活動を周知し、参画者の増加を図る。

【第3分科会「家庭教育支援活動の促進」】

	事例	発表者	ファシリテーター／運営・記録
①	住民主体の家庭教育支援「えにわままっぷ」の取組	恵庭市教育委員会教育部社会教育課主事（社会教育主事） 中村 知暉	別海町教育委員会生涯学習課 生涯学習センター建設準備室 社会教育主事/主任 上杉大洋
②	「厚真町アウトメディア運動」の概要と取組	厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ主査 社会教育主事 小田島 美雪	利尻富士町教育委員会 社会教育主事 高田 慎也

【事例発表、協議から見えたアプローチ】

- 「知識導入型の学び」と「活動についての学び」を実施することで自主的な活動が開始された。
- 事業は「人を集めて実施」という考え方から、「人の集まる所に行き実施」と、考え方を変えたことで、多くの対象への働きかけにつながる。
- 事業の抱き合わせ実施により多くの方が参加し学ぶことができた。
- 絵本カフェ、体験活動などで参加しやすい事業を実施した。
- 父親が参加しやすい事業を実施した。



【第4分科会「地域学校協働活動の促進」】

	事例	発表者	ファシリテーター／運営・記録
①	土曜日の教育支援活動「おくしりチャレンジスクール」の取組	奥尻町教育委員会社会教育係 社会教育主事 能代 晶子	浜頓別町教育委員会生涯学習係主事 大原 和也
②	「中高生を活用したまちづくり」の取組	標茶町教育委員会社会教育主 浅野 梨菜	岩内町教育委員会社会教育課 社会教育主事補 佐藤 文哉

【事例発表、協議から見えたアプローチ】

- 文化協会、体育協会等の地域の団体間で、目指す子ども像を共有することで連携を強化し、目的意識を持って事業に取り組めた。
- 高校生の参画により、新しいアイデアを事業に取り入れることで、事業内容を充実させた。
- 家庭教育サポート企業の協力を得ることで、事業内容の充実を図った。
- 中学校、高校に生徒が参画するメリットを明確に伝えることで、多くの生徒の参画につながり、中高生にとっての学びも深まった。



【第5分科会「社会教育施設を活用した青少年教育の促進」】

	事例	発表者	ファシリテーター／運営・記録
①	地域の青少年リーダーを養成する体験プログラム「ジュニアリーダーコース」の取組	北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル森社会教育主事 石山 浩幸	北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル深川 社会教育主事 一関 真希夫
②	地域のよさを学ぶ体験プログラム「アイヌ文化にふれよう」の取組	北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル厚岸社会教育主事 森 健太郎	北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル砂川 社会教育主事 齊藤 伸一

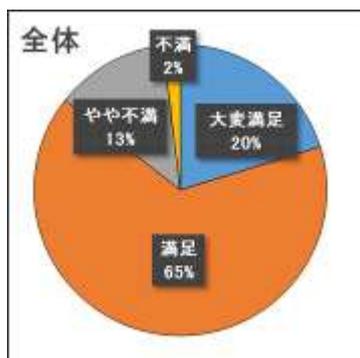
【事例発表、協議から見えたアプローチ】

- 事業の目的を達成させるため、関係者、参加者で目標を共有できるようにした。
- 参加者に合ったプログラムを実施することで事業目的の達成を図った。
- 体験を通すことで、より深く理解することができた。
- 学習者のニーズに合わせた学習を提供することで理解を深めた。
- 参加者だった小学生が将来、ボランティアとして関わることができる仕組みの構築により、将来にわたり学習の機会を提供することができるようになった。

○ 事業の満足度と参加者の声

アンケート結果について、回答者数 111 名（回収率 52.6%）ですが、設問ごとに回答者数が異なっています。

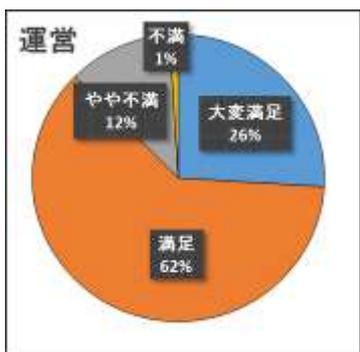
1 セミナー全体への満足度



	大変満足	満足	やや不満	不満
全体	21	68	13	2

- 他市町村担当者との交流が有意義だった。
- 経験の少ない私には学ぶことが多いセミナーだった。
- 経験の少ない方が、ファシリテーター等の役を担っていて大変だと感じた。
- 各コマのつながりが見えなかった。

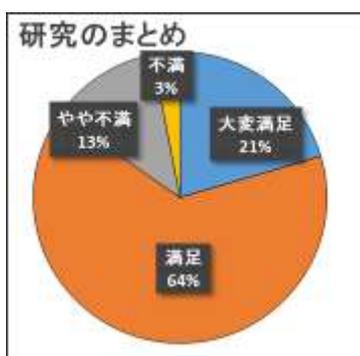
2 運営への満足度



	大変満足	満足	やや不満	不満
運営	27	64	12	1

- 全体としてスムーズに展開した。
- 分科会の時間配分が良くなかった。

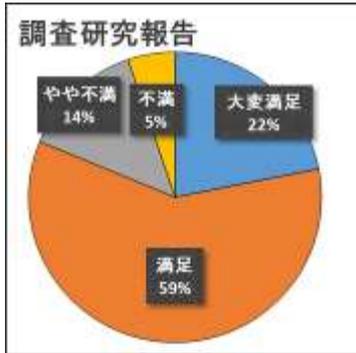
3 研究のまとめ



	大変満足	満足	やや不満	不満
研究のまとめ	20	63	12	3

- アプローチ集は今後活用したい。
- これまでの研究の経過が分かった。
- 時間をとって説明しなくても配付だけで十分。
- 関連が分からなかった。

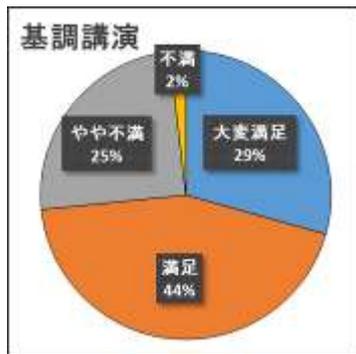
4 調査研究報告



	大変満足	満足	やや不満	不満
調査研究報告	21	57	13	5

- 自分が最終ビジョンを持たずに事業を進めていたことを感じ、反省しました。
- 実際の活用が実用的な内容だった。
- 北海道全体の状況を知ることができた。
- 資料配付で十分と感じた。

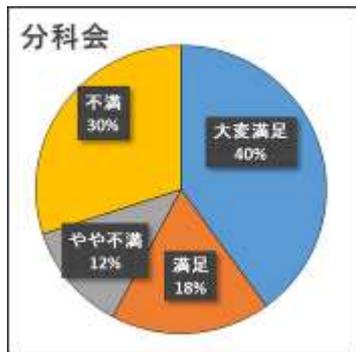
5 基調講演



	大変満足	満足	やや不満	不満
基調講演	32	48	27	2

- 地方創生は地域住民と協働し進めていかなければならないことを再確認できた。
- 数多くのヒントをいただいた。
- これからの方向付けができ、やる気が沸いた。
- 社会教育行政の在り方の部分を具体的に聞いたかった。

6 分科会



	大変満足	満足	やや不満	不満
分科会	36	16	11	27

- すぐにマチの事業で実践したいアプローチがあった。
- 他市町村の方と意見交換ができて勉強になった。
- グループ協議の時間が短かった。
- 発表された成功事例のそこまでの過程を知りたかった。

7 全体会



	大変満足	満足	やや不満	不満
全体会	31	48	24	4

- 他の分科会の内容を知ることができた。
- 事例の説明は口頭だけでは伝わりにくかった。

8 アンケート感想等から

- 次世代につなげていくためにも仕組み作りが大切、縦のつながりだけでなく横のつながりをつくることも大切だと感じた。
- 他市町村の取り組みの紹介をいただき、企画立案の方法から、学ぶことができました。
- 市町村の課題、困っていることなどを出し合い、それについて意見交換をしてみたい。
- アナウンスの途中に立ち歩くなど参加者のマナーが悪いと感じた。